

母子入院の母と子に合同保育がもたらしたもの

拓桃医療療育センター 育務班

田中章子 川部早江 羽柴秀美

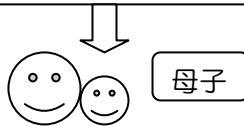
◆母子入院の療育

「児童が幼若である等のために、機能訓練等療育の実施にあたって、克服意欲を助長させることが困難であることから、短期間その母親とともに入園させ、必要な療育を行い、あわせて家庭復帰後においても一貫した適切な機能訓練等の指導方法を確保することを目的とする。」

(昭和40年 厚生省児童家庭局通知より抜粋)

◆母子入院の目的と母子を支えるスタッフ

医療：医師，看護師 機能訓練：PT，OT，ST
保育：保育士 相談：MSW
☆チームを組み共通の計画のもとでアプローチ☆



母親が子どもの障害を理解し、家庭で療育ができるようになること

◆母子保育の目的

- ①子どもの発達に合わせた遊びを探し、発達を促していく。
- ②母親が子どもと情緒的に安定した関係を作りながら、発達に合わせたより良い刺激を与え、発達を促していくために、育児の中でどのように関わっていけば良いかを知ってもらう。
- ③子どもの反応を観察して、関心のある玩具やどんなものに興味を持っているかを見つけ、同時に、好ましい姿勢や運動を促すことに繋がる遊びを展開できるように考えていく。

◆母子保育の経過

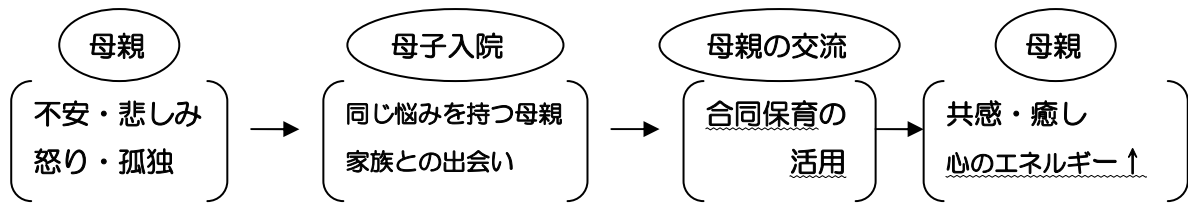
S4 1～個別の保育は行わず。入院した母子が集団で参加する**合同保育のみ**行う。

S5 2～早期発見・早期治療が進む→合同保育だけでは個々の子どもの発達と治療方針に即した保育カリキュラムが立てにくい。より細かな働きかけができない。→**合同保育に加えて、個別保育も**組み入れる。

H1 6～入院する子どもたちの年齢や、障害の種類・程度が異なること、改修工事に伴い病棟の構造が変わったこと、合同で保育が行える保育室が使用できなくなったこと→**個別保育のみ**となる。

◆合同保育再開の目的

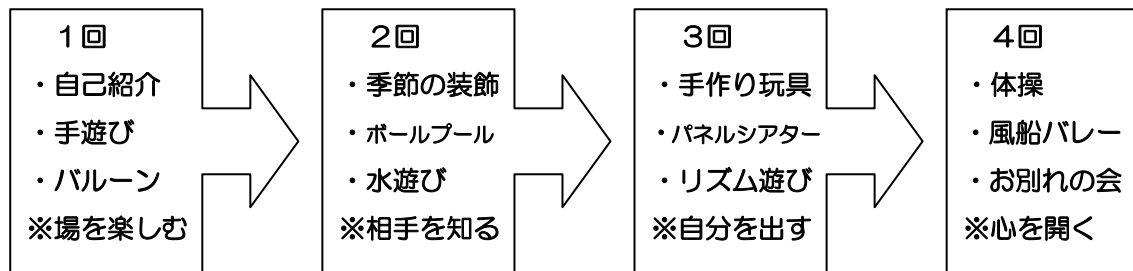
母親たちが交流を持つ機会を作り、母親が前向きに療育に取り組んでいくための手助けはできないだろうか？



◆対象 H20.4～H21.7に入院した45組の母子

◆方法 2ヶ月の入院期間中に2週間に一度、計4回実施。1回の合同保育時間は40分～50分。場所は病棟の食堂。参加スタッフは保育士2名と看護師2～3名程度。
 実施前：保育のねらい・母子が楽しめるポイントと配慮点をスタッフ間で打合せ。
 実施後：反省会にて、母子の変化を確認・記録。
 母親たちに無記名によるアンケートを実施し、合同保育に関する母親たちの意向を調査。

◆合同保育の内容の一例



◆母親の意向調査～アンケートから

- | | |
|--------------|----------------------|
| Q1. 実施回数 | Q4. 子どもの様子 |
| Q2. 保育時間 | Q5. 子どもに関して気付いたこと |
| Q3. 実施曜日・時間帯 | Q6. 母自身の気持ちに変化はあったか？ |

45人の母親に依頼→64, 4%にあたる29人から回答を得る

Q1～Q3：実施回数・一回あたりの保育時間，実施曜日・時間帯～概ね満足している。

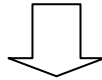
Q4：合同保育中の子どもの様子→26人が「楽しんで」と回答。

Q5：子どもに関して気づいたことは？→26人が「気づきがあった」と回答。

- ・子どもが好むもの、苦手なものへの新たな気づき
- ・他児が楽しんでいる様子を見て嬉しそうにしている子どもの姿
- ・母親と一緒に楽しむと、子どもが母親の笑顔を見て笑った。

Q 6 : 母親自身の気持ちに前向きな変化はあったか? → 2 2 人が「変化があった」と回答。

回答はプラス面の内容が多く、毎回の合同保育の終わりに、
母親たちから話された感想も同様であった。



☆合同保育は、「母親のきもちが前向きに立ち直るきっかけ」の一つとなり得た☆

◆結果① 合同保育がもたらしたもの

- 母親間の関係が深まり、孤独感から開放され、子どもへの思いや接し方に、良好な変化をもたらした。 子どもの障害の「理解」と「受容」へ。
- 集団経験の少なかった母子も、集団の必要性を感じ、地域の資源を活用することを考え始めた。 「家庭内」から「外」へ気持ちが向き始めた。

◆結果② 合同保育の問題点

- △集団が苦手な子どもと、その母親へのフォロー。
- △母親自身が集団を苦手とする場合の対応。
- △合同保育だけでは、母親たちに多くを伝えきれない。→日々の個別保育での母親たちとの関係作りが、とても重要である。
- △合同保育の支援者である保育士のスキルアップの必要性。

◆考察・まとめ

- ・合同保育をとおして、母親間のつながりや、母子の絆が深まる可能性を見出すことができた。
- ・それまでの母子関係や母親の抱えるストレスや不安感といった、より個別的な思いにどのように対応していくかが今後の課題。